

## 研究課題名：胃食道逆流症に対する治療と予後についての検討に関する情報公開

### 1. 研究の対象

1999年1月1日から2016年11月30日までに名古屋大学小児外科で胃食道逆流症に対する治療を受けた方全員

### 2. 研究目的・方法

胃食道逆流症に対する治療として、噴門形成術が広く行われていますが、10%程度の患者では再発がみられており、その際には再手術やほかの治療が選択されています。噴門形成術以外の治療のうち外科的治療としては腸瘻造設、食道胃離断術がありますが、特に食道胃離断術については長期予後がまだ十分に評価されていません。この研究では胃食道逆流症の患者の治療とその予後について、噴門形成術不成功例に焦点を当てつつ、後方視的に検討をし、胃食道逆流症に対する最適な治療法選択の基準を決めることを目的とします。対象患者の術中術後経過および予後について、診療記録より後方視的に検討します。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：カルテから、基礎疾患、内服薬、手術時期、手術情報（術式、術中所見、手術時間、出血量、輸血量、麻酔等）、術中合併症、術後経過（合併症、入院期間、再入院、再手術、栄養状態、呼吸状態等）、予後、等

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65

名古屋大学医学部医学研究科 小児外科学

(052) 741-2111 (代表)

研究責任者：

名古屋大学大学院医学系研究科病態外科学講座 小児外科学分野 田中裕次郎